都市整備

西武多摩湖線・国分寺線の深夜運行本数をふやせないか

浅倉成樹議員（公明）　①国分寺駅発の深夜運行本数をふやせないかという要望が複数の市民から寄せられている。西武鉄道に対して、多摩湖線及び国分寺線の国分寺駅発深夜0時台の便を増発するよう申し入れるべきと思うがどうか。

市長　①平成12年の世論調査では、市内から通勤と通学で利用する交通手段は鉄道が半数を超えており、また、景気動向や雇用形態の変化で労働時間が長くなっていることから、深夜運行を望む市民がふえていると考える。今後、鉄道事業者に申し入れをしたいと考える。

小川駅西口再開発と小川西町の魅力あるまちづくりについて

佐野郁夫議員（政和）　①再開発事業の現状と見通しは。

②都のかかわりは。

③この再開発事業に求められるものは何か。

④市も事業主体として組合に参加する考えはないか。

⑤小川西町全体のまちづくりの考え方は。

市長　①準備組合の設立に向けて権利者に働きかけを行っているところであり、今年度中には設立同意をまとめたい。

②都市計画決定、再開発組合の設立並びに権利変換計画等で都知事の認可等が必要になる。補助金申請も合わせ調整を進めたい。

③協議会は商業を中心とした町の活性化を求めているため、基本プランを作成する中で広く意見を聞き、協議会と調査研究をしていきたい。

④関係権利者で構成された事業であるが、公共性が高いため、全面的に支援をしていく。

⑤バリアフリーに配慮した快適な生活空間の創出や、野火止用水を生かした小平グリーンロードの整備などが課題である。

これからの小平駅北口広場について

佐藤　充議員（共産）　①北口広場を開放してほしい等の市民意見があるが、市の見解は。所有者である西武鉄道と交渉等はしたか。

②時間貸し平面駐車場工事の予定は。

③自動車は北側から出入りするとのことだが、通行者や商店街に対する安全対策は。

市長　①駅前広場として都市計画決定された区域内にあるので、駅前広場として整備する予定である。また、駐車場については計画を確認した時点で歩行者への安全確保や自転車駐車場への変更等を依頼したが、計画の変更には至っていない。

②9月下旬にオープンの予定と聞いている。

③西武鉄道に対し歩行者専用通路の設置等を要望したが、合意には至っていない。

◀整備された駐車場（小平駅北口）

小平駅周辺の自動車駐車場に関して

永田政弘議員（政和）　①平成12年にあかしあ通りへのパーキングメーター設置に関して一般質問をした際の、「都公安委員会は絶対に設置できないとは断言していない。」という答弁と現状とに差はあるか。

②道路交通法が改正されたことによる影響は。

③駅前ロータリー内とあかしあ通りにパーキングメーターを設置できないか。

市長　①交通安全上支障があるという状況は変わらない。

②駐車違反の車両が少なくなった反面、運送業者等からは不満が出ているとのことである。

③ロータリー内はあかしあ通りの起点として交通量が多いため、また、あかしあ通りは車道の有効幅員が狭くなるため、路線バスや交通安全の見地から困難と考える。

小平版自転車の似合う快適なまちづくりについて

佐野郁夫議員（政和）　①小平市環境審議会等や交通安全対策協議会において自転車利用に関する議論はされたか。

②自転車交通に対する基本的な考え方は。また、自転車交通をまちづくりの核に据えたまちづくり計画はできないか。

市長　①審議会では特になかったが、協議会では利用者のマナー向上策が議論の中心となっている。

②環境に優しく健康にも寄与する自転車の活用を含め、通行や移動がしやすい便利な町を第三次長期総合計画で目指している。また、都市計画マスタープラン改定の検討委員会では、歩行者・自転車に配慮した道路整備等の改善を重点的に検討するとしたため、何らかの方針を盛り込みたい。

区画整理事業で地域はどう変わるのか

立花隆一議員（公明）　①小川町一丁目土地区画整理事業の今後の予定と地域への対応は。

②区画整理地内の都市計画道路3・4・23号線やコミュニティー道路の検討状況は。

③児童館併設の地域センター計画、プレーパーク公園計画の進捗状況は。

④事業費捻出の方法は。

市長　①平成18年度から5年間で工事を行う。工事敷地側に防じんネットを設置し、必要な箇所には交通整理員を配置する。

②3・4・23号線は交通安全対策の協議を行っている。コミュニティー道路は機能確保が困難なため、今後は生活幹線道路とし、車両のスピード抑制、歩道舗装等を検討している。

③地域センターは計画より若干東側に変更する。プレーパークは設置するための検討をしている。

④都と市の補助金、保留地処分金で賄う計画である。

西武線萩山駅のエレベーター設置について

原　邦彦議員（公明）　①東村山市の取り組み状況は。

②設置された場合、駅前の歩道橋を含む整備等の考えは。

③福祉のまちづくりという考えに立ち、小平市の整備区間について一定のバリアフリー化を行う考えはあるか。

④駅舎を結ぶ道路や駅前広場、歩道橋などへの動線についても東村山市と協議をし、交通弱者に配慮した整備をすべきでは。

市長　①東村山市第5次実施計画で、平成19年度に萩山駅にエレベーターを設置する事業が計画決定され、実現に向けて西武鉄道と調整中と聞いている。

②東村山市の管理となっているので、今後の利用実態を見ながら要請をしていく。

③必要なバリアフリー化を検討していく。

④福祉的視点に立った公共交通施設の整備を協議し検討する。

▶萩山駅南口

コミュニティバスを初め交通不便地域解消施策の今後は

佐藤　充議員（共産）　①市はNPO法人によるコミュニティタクシーの運行を支援するとのことだが、それに対する大沼地域等の市民の受けとめ方は。

②NPO法人設立の具体的検討要件は。

③市の役割や責任をどのように明確にするのか。

④8月から運行を開始した大沼団地への乗り入れバスの現状と今後の課題は。

市長　①理解しづらい制度との意見があったが、前向きに取り組みたいということで、より具体的な説明を求められている。

②NPO法人の運営方法、利用者数の見込み、運行ルートの検討、運賃の検討などである。

③市の責務は、地域内の生活交通と幹線交通を充実させて他地域とのつながりを持たせることにより、乗り継げば市内の主要なところへ行けるようにすることと考える。

④大沼団地始発の乗客は多いときで5、6人と聞いている。地元自治会やバス会社の下支えにより、運行が継続されることが課題と考える。

コミュニティバスの新路線は実施目標の年次を明確にせよ

橋本久雄議員（緑ネ）　①実施年次を明確にする必要があるのではないか。

②NPO法人と行政のそれぞれの運行経費は。またその差は。

③青梅街道幹線軸の運行をバス会社が担わなかった場合どうするのか。

④実施年次の見きわめはいつ行うのか。

市長　①生活交通を確保する機運が高まった地域からNPO法人設立に対する支援等を行いたい。順調に協議が進めば来年度から試行が可能と考える。

②NPO法人の場合は経費と運賃収入及び市の補助金により収支のバランスを考え合わせて決まってくるものと考える。にじバスでは約6千5百万円程度になるが、現時点では経費の差は比較できない。

③都や民間バス事業者に対して路線の増や延伸を強く要望していきたい。

④交通体系の全体が見えてきた時点で改めて検討する。

市の責任でコミュニティバス運行をするのではなかったのか

立花隆一議員（公明）　①当初の市で運行するとの姿勢から、地域のNPO法人などに支援をする姿勢へ転換した理由は。

②市の責任の所在は。

③赤字が予想されたのに試行に踏み切った経緯は。

④にじバスの新たな試行運行の調査・再評価を6か月という短期間で行う根拠は。

市長　①市民要望の強いすべての地域にコミュニティバスを走らせるのは道路事情や経費の面から非効率と判断したため、地域の特性にあったNPO法人設立に対する支援や技術的、財政的支援を考えた。

②地域でできることに市が支援することだと考える。

③市の政策として新しい交通システムを導入するために、市に適しているかどうかの試行運行を行った。

④路線の若干の変更と料金の見直しであるため、一定の評価を得られると考えている。

上水南町の立川バスと京王バスバス停の共用使用について

小林秀雄議員（フォ）　①バス停の共用使用が実現しないが、問題点とバス会社の対応は。

②立川バスに要望書を提出したと聞くが、回答内容は。

③バス停を共用使用する必要があると思うがどうか。

④再度、共用使用について要望してほしいがどうか。

市長　①立川バスの国分寺駅からの運賃が京王バスより20円高く、値下げは多額の負担になるため問題となっていた。その後両者ともにバス停を共用する方向で検討し、話し合いを行うとの意向が示された。

②立川バスと京王バスにバス停統合の要望をしたが、その後話し合いが行われたとの回答は受けていない。

③現状では安全対策面からも問題があると認識しており、共用は安全や利便上からも必要なことと判断している。

④早急に要望したい。

自転車を生かしたまちづくりを

岩本博子議員（緑ネ）　①まちづくりにおける自転車の位置づけと社会整備に対する考えは。

②市民へのマナー教育・啓発の取り組み状況は。

③自転車の利用促進のため、長距離通勤者には定期代にかえ、一定の補助をする制度を検討してはどうか。

④放置自転車対策への取り組み状況と課題は。

市長　①第三次長期総合計画では環境に優しく健康にも寄与する自転車の活用も含め、通行しやすく移動もしやすい便利な町を目指している。

②街頭での啓発活動や、市内各高校の協力を得たマナー向上キャンペーンを実施している。

③補助により特定の通勤手段に導くのは困難と考える。

④平成17年度は9千8百32台撤去した。マナーの向上や取り締まりの徹底により歩行者が安心して利用できる歩道を確保することが課題である。

医療・健康

市は公立昭和病院の利用者のサービス水準を把握しているか

斉藤　進議員（フォ）　①小児科や産婦人科の医師数と労働環境改善の必要性は。

②看護師の配置状況は適正か。

③医師が恒常的に不足しているのはどの科か。

◀増改築中の公立昭和病院

④労働環境に対する医師や看護師の要望内容は。

⑤増改築工事以外の課題は。

市長　①8月1日現在、小児科医は7人、産婦人科医は5人である。常勤で不足する部分は非常勤医師から応援を得ているが、月に7回程度の過酷な宿日直勤務があるため充足することを期待している。

②定数は403人で、患者10人に対して1人以上の看護師を配置している。日勤、準夜、深夜の3交代勤務で、準夜、深夜勤務の合計回数を一定以下にすることが課題である。

③麻酔科のほか、小児科なども不足していると聞いている。

④医師は当直の回数、看護師は夜勤回数を一定以下にしてほしいという要望がある。

⑤経営改善の推進、補助金の確保、小児医療受け入れ体制の充実等がある。